

あんぜんあんしんのまち みなみ区に 向けて



自主防災組織

平成7年1月の阪神・淡路大震災で倒壊家屋などから多くの被災者を救出したのは「近隣住民」でした。この事例を教訓に、澄川地区連合会は、災害に対応できる安全で安心なまちづくりに着手し、平成10年1月に「澄川地区自主防災計画」を策定。単位町内会及び連合会としての自主防災組織体制を立ち上げ、地区内での同時多発災害への対応を整えました。

人も機械も訓練も

自主防災組織には、地域在住の元警察官や元自衛官が組織的に参加し、医師や看護師、大型重機免許所有者なども登録されています。また、業務無線やチェンソー、可搬式消防ポンプなどを地区の資料庫に常備しています。



▲使った人形を心肺蘇生講習会

地区独自に行っている総合防災訓練では、日中の災害発生に即応できるよう、中学生

や女性のチームでの訓練も実施しています。

全国で十五カ所の

地域安心安全ステーション

同連合会は、平成16年7月に総務省から、地域安心安全ステーション整備モデル事業の指定（全国で十五カ所、北海道では唯一）を受けました。これは、住民パワーを生かすため、地域の安心安全を確立するため、資機材や情報を集約した地域拠点を整備するものです。

今回の指定を受け、同連合会では、町内パトロール車用の青色回転灯や、災害時の人命救助に必要な油圧救助器具などを導入し、活動の強化を図りました。これらの購入には、宝くじの普及を行っている財団法人自治総合センターからの助成金が充てられています。



▲新規導入した油圧救助器具

平成16年12月に行われた「澄川安心安全ステーション

歳末警戒決起集会」では、モデル事業の指定までの経過報告があり、今後も職場・学校・家庭などが一丸となって、「安心安全のまち澄川」を築くことを声高らかに宣言しました。来賓の末次札幌方面南警察署長からは「自分たちで守っていくという活動が、地域の安心感と防犯意識の向上につながっていきます。今回導入した青色回転灯は犯罪者への抑止的効果が高いので活用してもらいたい。南署としても地域への情報提供など、より積極的に協力したい」との心強い話がありました。



▲南警察署長

まずは家庭そして地域で

度重なる地震や台風、深刻化する凶悪犯罪が続き、災害や治安に対する市民の不安が高まっている現在。「自分は大丈夫だ」は、いざという時に通用しません。家庭、地域、行政が協働して安全安心のまちをつくっていきましょう。